

「企業が学業重視」実感半数

就活生調査 前年から3割増

「企業は採用活動で思いのほか学業を重視している」。人材関連企業で構成する履修履歴活用コンソーシアム（東京・千代田）が、2019年春卒業予定の学生に聞いた調査でこんな結果が明らかになった。エントリーシートや面接でインターンシップやアルバイトの経験を強調する学生は多いが、厳選志向の大手企業を中心に改めて学生の本分に目を向ける動きが広がっているようだ。

働く姿勢の判断基準に

調査は来春卒業予定の大学・大学院生を対象として、6月15日～7月15日にネットで実施。21日41人から回答を得た。学生が採用選考を受けた企業のうち「学業を重視していると感じた企業」がどのくらいあったか。18年卒学生を感じた理由を複数回答で対象とした昨年の調査で

「企業は採用活動で思いのほか学業を重視している」。人材関連企業で構成する履修履歴活用コンソーシアム（東京・千代田）が、2019年春卒業予定の学生に聞いた調査でこんな結果が明らかになった。エントリーシートや面接でインターンシップやアルバイトの経験を強調する学生は多いが、厳選志向の大手企業を中心に改めて学生の本分に目を向ける動きが広がっているようだ。

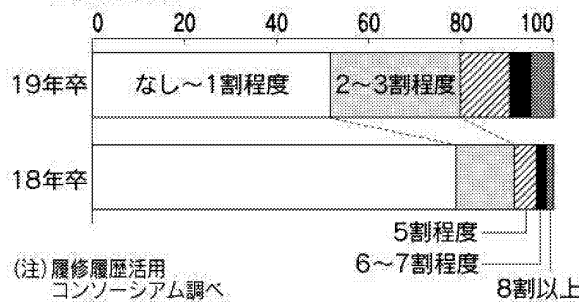
研究・ゼミ以外の履修科目や授業について、具体的に質問されたから」が62.2%と最も多かった。

自由回答では「学業に対する学生の姿勢や考え方から人柄を読み取っているように感じた」という答えもあった。

これに対して、学業を重視していると感じなかった理由としては、面接で「研究・ゼミ以外の履修科目や授業について具

体的な質問がなかったから」が最多で、「卒業可能性についての質問程度だった」という回答も多かった。

採用選考で学業を重視していると感じた企業の割合



(注) 履修履歴活用コンソーシアム調べ



選考時に学生の履修履歴と成績を重視する企業が増えつつある

一方、授業への出席率の45.7%が面接で学生（同）の協力を得て、企業が科目や成績などの条件で人物を検索してオファーを出せるサービスを展開する。同コンソーシアムの保坂光江事務局長は「作りに設定。採用支援会社の拡大を目指すために17年以降、マイナビやデを管理する大学成績セン

を重視する企業が増えてきているのではないかと指摘する。

経団連の中西宏明会長は21年卒の採用活動から、時期を決める「就活ルール」の廃止に言及した。大学関係者などからは採用活動の早期化につながる、学生の学業への影響を懸念する声も高まる。学業重視の採用姿勢をとる企業が増えることは今後の就活時期の議論にも影響しそうだ。

(小柳優太)